



今井まちなみ通信

全国町家再生交流会in今井町を終えて —あらためて思う、町家の再生とまちづくり—

10月8・9日の2日にわたり、今井町で「第4回全国町家再生交流会in今井町」を開催、また同時に、8日から16日まで、奈良・町家の芸術祭「HANARART (はならあと)」を開催しました。全国町家再生交流会は、京都、金澤、次に今井町ということで、奈良県の一地方の町での開催に、どんな意味や意義があるのか。実行委員長として、当初よりいろんな不安や心配がありました。町家再生の取り組みや試み、動きが全国に広がり、京都、金澤には及ばないまでも、重要伝統的建造物群保存地区としての今井町という地方の町でなければできないものもあるのではないかと。全国各地の町家再生に取り組む方々との「交流の場」「集いの場」づくりとして、開催したいと思いました。

しかし現実には、私たちNPOは、ようやく設立6年、組織的にも未成熟で全国の方々をお迎えするためには厳しい面が多々ありました。しかしなんとか、今井町全体での支援、協力体制のもと、共にこの交流会ができないか、そんな思いを巡らすなか、今井町町並み保存会の若林稔会長から「一緒にやろう」と、力強い言葉をいただきました。柱となる実行委員会事務局のメンバーも、NPOと保存会の若いメンバーで構成し、協働して開催までこぎつけることができました。

これまで保存会は永く、町並み保存、まちづくりを担い、「第26回全国町並みゼミかしはら・今井大会」の開催経験を持ち、町並み保存、まちづくりといった町の全体的なイメージ、価値の向上、発信などに取り組んできました。一方、私たちNPOは、空き町家の問題、利活用に取り組んできました。

今井町の存在が近年注目を増し、今井の町家や町家暮らしにも関心が広がり、「今井町に住みたい、住んでみたい」という人、空き町家の利活用の実例が増えるようになってきました。いまの今井町をみると、このまちづくり組織の活動の両輪が機能し、はじめて今井町の現在の姿がつくられているように思います。

交流会の基調講演では、奈良県内の各地区をつなぎ、空き町家の再生に取り組む「大和・町家バンクネットワーク」の取り組みなどが報告されました。各分科会では、町家の再生に取り組むなか、多くのテーマから、5つの現在のテーマで開催されました。

現在の日本社会が持つ様々な課題にとって、ますます伝統的な町家が持つ意味や意義の重さが増えています。各分科会では、各地の取り組みや参加者からの意見や提言、疑問などの発言があり、活発な意見交換、交流がなされました。

全国の一つの事例として、今井町という町、その取り組みが、全国の町家再生に取り組む方々のつなぎ目となり、なんらかの示唆を持つものと思います。

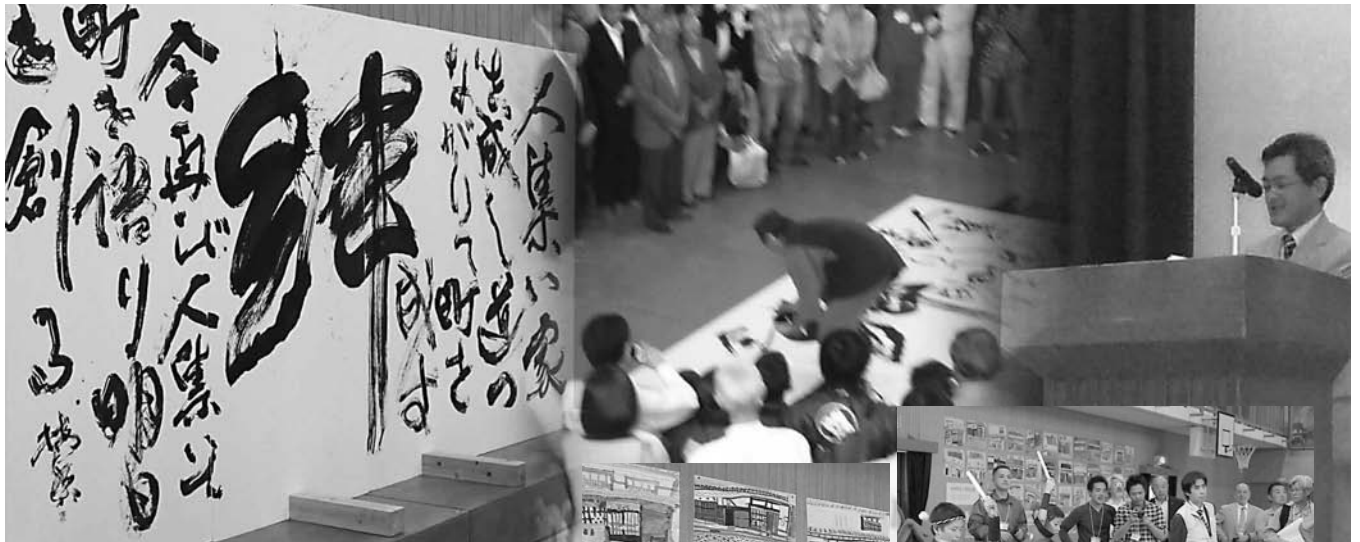
今後、町がどのようなまちづくりをすすめていくか。どういった町にしていくか。町家再生の取り組みは、町のこれからのあり方とともにあり、それが一方でも欠けては、町家再生は実現しません。まちがあり、歴史があり、伝統があり、人々があり、町家があり、そこに暮らしがある。そんな関係性のなかでの町家再生を、今後も考えていきたいと思っています。

同時に開催された「HANARART」では、今井町での町家と、現代アートの可能性を感じる多くのアート作品との出会いがあり、秋の今井町を彩る、華やかな催しとなりました。

交流会、HANARART、二つの大きなイベントの開催にあたり、ご支援、ご協力いただきました県内各地域の皆様、関係団体、組織の皆様、支えていただいた今井町自治委員会をはじめ今井町住民の皆様、町内の各種団体の皆様、NPOの会員の皆様、関係スタッフの皆様、そしてご参加いただいた全国の町家再生に取り組む皆様に改めまして感謝、御礼申し上げます。

実行委員長 上田琢也

(NPO法人今井まちなみ再生ネットワーク理事長)



—小さなつながりが、 大きく広がり、 そして“絆”へ—



“第4回全国町家再生交流会 in 今井町” 地方都市からの町家再生～つながり、ひろがる町家の暮らし～が、10月8日(土)・9日(日)の二日間の日程で開催されました。

第1回、第2回の京都、そして第3回の金沢に続き、今井町で開催されたこの第4回大会に、遠くは北海道や九州から139名の方々が“町家再生”をテーマにお集まりいただきました。

開催当日、晴天の下、メイン会場の今井小学校体育館には子供太鼓の音色が鳴り響き、小学校の子供たちの書いた今井町の絵画が来場者を出迎えました。実行委員会の若林副会長に大きなキャンパスに“絆”の文字を揮毫していただき、続いての上田実行委員長の開会宣言でこの交流会は始まりました。榎原市長はじめ多くのご来賓の方々のご祝辞、続いての基調報告と盛大に会は進んで行きました。

今回の交流会のメイン事業は5つのテーマに分かれての分科会でした。分科会の会場として豊田家、音村家、高木家の重要文化財と、そして嘉雲亭、今井景観支援センターの5つを、所有者の方々が快くご提供していただきました。見て、触れて、その中で学ぶ…。他の町には真似できない、今井町ならではのやり方に、参加者の多くからは賛辞の声をいただきました。雰囲気もさることながら、分科会と会場を移して行われた懇親会では

町家再生について熱い議論が交わされ、「有意義だった」「今後の町家についてヒントを得た」などの感想を多く聞くことができました。

もうひとつの大きな事業として、2日目に開催された“見学会&まちあるき”です。町家改修工事現場の見学コースでは、今井町で行われている改修前、改修中、改修後のそれぞれの町家を見学していただき、リアルタイムの町家再生をご覧いただきました。重伝建の町並み見学コースでは従来のまちあるきに加え、今井町町並み保存会による今西邸のお白州を使った裁判の再現などが行われました。参加者の方々からは「町の規模の大きさに驚いた」「とても一度では見きれない」「また、帰ってきたい」など多くの言葉をいただきました。

2日目の分科会の報告会では段取り不足により中断があり大変ご迷惑をおかけいたしました。それ以外は事故もなく、スタッフの努力に感謝申し上げます。しかし、ここに来るまでには長い道のりがありました。

開催の危機

実行委員会が本格的にスタートしたのは開催まで5カ月を切ったころでした。スタッフの中でも大きな不安を抱え、「本当に開催できるのだろうか?」と疑問の声をあげる人も少なくありませんでした。そんな中、危機感をもった事務局若手メンバーの呼びかけに、色々な方が呼応して事務局体制を立て直しました。

若手とベテランそれぞれが力を合わせNPO、自治会、保存会をはじめ様々な方々の協力を得て、徐々に実行委員会が一つになって開催までこぎつけることができました。その中にはスタッフの苦勞と努力があり、この交流会には当日だけではなく、開催するまでの過程にも数多くの感動がたくさんありました。

多くの人が力を合わせ、一体感を持って、一時は無理ではないかと言われた交流会が開催できたのは参加いただいた方々の“今井の町を、人を、思う心”であったと実感しました。

そして絆へ

第4回全国町家再生交流会が今井町で開催されたことには大きな意味があると思います。第1回、第2回の町家再生では全国を引っ張る京都で、第3回は全国的に



右上から時計回りに、町家改修工事現場の見学のように、基調報告、分科会、重伝建の町並み見学

有名で町の規模もとても大きい金沢で開催されたこの交流会の第4回が今井町で開かれたことは、今井町が歴史的価値とこれからの可能性にあふれた町であるからだと思います。地方都市の片隅に日本全国が注目し、これからを期待されている町があるということを再認識したのではないのでしょうか。

色々な方の努力で今井町の価値はどんどん上がってきています。古くから今井に住む人、新しく今井に入ってきた人、今井の外から今井を応援する人、自治体、そして全国の今井を愛する人たちが一つになって今井の今と未来の歴史を作っていくかなければなりません。今回の交流会を通じて一瞬ではありますが、それぞれがつながり、一つになれたのではないかと思います。

この小さな、小さなつながりが、やがて大きく広がってそして固い、固い絆となっていくことを心から願っております。

そして、最後になりましたがこの交流会に携わってくださった多くの方々に、言葉では言い尽くせませんが、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第4回全国町家再生交流会in今井町

地方都市からの町家再生～つながり、ひろがる町家の暮らし～

- 参加者数 一般139名、スタッフ68名、計207名
 - 日程 平成23年10月8日(土)・9日(日)
 - 場所 奈良県橿原市今井町伝統的建造物群保存地区 他
 - 主催 第4回全国町家再生交流会実行委員会
 - 主管 NPO法人今井まちなみ再生ネットワーク
 - 参加団体 今井町町並み保存会、今井地区自治委員会、奈良まちづくりセンター、奈良県建築士会、京町家ネット、大和・町家バンクネットワーク協議会各団体、古材文化の会 他
 - 後援 奈良県、橿原市、橿原市教育委員会
 - メイン会場 今井小学校体育館(開会式、基調報告、分科会報告、閉会式)
 - 分科会(10月8日)
 - 第1分科会(重文 豊田家)
「住まい手・所有者・担い手、まちづくりの三方よしを考える」
 - 第2分科会(嘉雲亭)
「町家活用から大和の地域再生へ!」
 - 第3分科会(重文 音村家)
「景観法は町家を活かせるか」
 - 第4分科会(今井景観支援センター)
「町家再生の不動産活用方策を探る」
 - 第5分科会(重文 高木家)
「『町家』リフォーム・新築市場の開拓拡大について」
 - 見学会&まちあるき(10月9日)
 - Aコース: 町家改修工事現場の見学
(井上家、茅原家、竹嶋家、ゆうゆ〜今井)
 - Bコース: 重要伝統的建造物群保存地区の町並みの見学
(今西家、旧米谷家、河合家 他)
 - 担当: 今井町町並み保存会、今井町並保存整備事務所
 - 来賓出席者 橿原市長、橿原市議会議長、橿原市教育委員会教育長、奈良県土木部まちづくり推進局長(代理)、衆議院議員(代理)
 - 協力 奈良女子大学学生有志、千葉大学学生有志、今井子供太鼓、十返舎、粋庵
- その他今井を愛する多くの方々にご協力いただきました。

「奈良・町家の芸術祭 HANARART」を 開催しました。

(はならあと)

平成23年10月8日(土)～10月30日(日)に、奈良県内の7地域において、「奈良・町家の芸術祭HANARART(はならあと)」を開催しました。

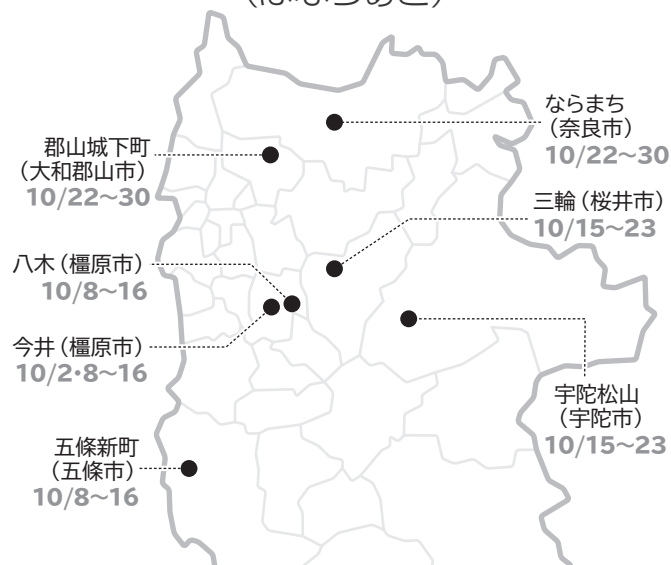
今井町では、今井(橿原市)エリアとして、10月2日(日)・8日(土)から、16日(日)の10日間にわたり開催しました。

HANARART開催にあたって、「出会い」に想いをこめて

奈良県内には、今井町、宇陀市松山、五條市新町などの重要伝統的建造物群保存地区だけでなく、伝統的な町家や歴史的な町並みが残る地区が多数点在しています。これらの地域は、町家が今も息づき、人と人との繋がりが深く、地域コミュニティも機能するなど、現在の日本社会にとって非常に貴重な存在です。しかし、近年空き家が増加し、その老朽化の進行により、良好な景観が失われ、地区の活性化、安全性が阻害されるようになっていきます。



町家を彩るアートの数々



□開催地域：上記7エリア
□7エリアのほかにサテライト会場として、高取土佐(高取町)・初瀬(桜井市)・田原本(田原本町)においてアーティストの作品の展示や各種イベントが開催されました。

このような中、県内各地区のまちづくり団体、担い手が手を取り合い、「奈良・町家の芸術祭 HANARART(はならあと)」を開催しました。

県内の町家・町並みの魅力を広く全国的に発信するとともに、地域内外の交流促進、地域住民の地域への誇り・愛着の醸成への寄与を目的としたものです。将来的にはこのイベントが、アーティスト・イン・レジデンスなど、町家の利活用の機縁につながることを願い、第1回目となる今回は、キーワードを“出会い”としました。

「町家とアートの出会い」はもちろんのこと、「人と人」「町と人」「アートと人」、多くの“出会い”の場にしたいという想いが込められています。

さらに開催にあたって、東日本大震災で被災された方はもちろん、多くの人々に、「国のまほろば」といわれる奈良から、心を和らげ、安らかな暮らしへの励みにつながることを願って、「はな・ハナ・HANA」というテーマに決めました。

今井町でのHANARART

10月2日(日)、開会に先がけ、プレイベント/震災・災害復興支援チャリティイベントとして「中島崇・町家に『HANA』を咲かそうワークショップ」を、今井まちなみ交流センター華薨で実施しました。



中島崇・町家に『HANA』を咲かそうワークショップのようす

作家中島崇さんは色画用紙を用いて、自然が持つ生命力をモチーフに、増幅、成長していく遅ささと疎ましさを表現した空間作品を制作されました。イベントでは、参加者と一緒に色画用紙でお花を作るというワークショップを行いました。

多くのお子様にも参加していただき、たくさんの笑顔が溢れる楽しいイベントとなりました。ここで制作した作品はご自身の作品と併せて、旧西町生活広場に展示をしていただきました。

今井エリアでのテーマは、「江戸時代にタイムスリップしてアートを楽しむ」です。

旧米谷家、今井まちなみ交流センター華菴、サガン井上、恒岡家町家、森本家ガレージを主な会場として作品展示を行いました。一般公募の作家さんによる各町家会場での作品展示とともに、今井町独自のアート展として、サガン井上（今井町大工町）の洋画家井上勝彦氏によるプロデュースで、特色ある多数の作家さんによるアート展が開催されました。

アート作品と町家との組み合わせは、作品の可能性や広がりを感じ、改めて、アート作品に身近に触れ、感じるいい機会となりました。

町家を活かす試みとして、総合インフォメーションとして蘇武橋の龍田家町家をお借りしました。

初日から天候に恵まれ、今井町の10日間の来場者は、延べ人数で約8200人となりました。

各会場では、来場者とスタッフが町家・アート作品をきっかけに、多くの出会い・交流が生まれていました。来場者の中には、今井町という町について、また会場となっている町家について、話を聞いたことが非常に有意義であったとおっしゃる方もいました。

各会場の運営は、今井町町並み保存会若林会長を中心に、並行して10月8・9日に開催された「第4回全国町家再生交流会 in 今井町」とともに、今井町町並み保存会の皆さんが全面的に支援をしていただき、NPOが交流会に全力投球できる体制づくりを整えてくださいました。各会場でも終日にわたり、スタッフとして作品の見守りや来場者への案内などをしていただいたり、総合インフォメーションで来場者を迎えてくださったりと、大変ご尽力を賜りました。

今回のような大きなイベントは、特に今井町内のたくさんの方々のご協力のもと、開催することができたと改めて感じております。事前の広報不足など、課題も多く残るイベントではありましたが、無事に第1回目を開催できたこと心より嬉しく思います。

町家、町並みを活かしたイベントとして、また、**新たなアートの可能性を追求したイベント**として、今後も取り組んでいきたいと思えます。

ご参加いただいた皆様、ご協力くださいました多くの方々、本当にありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。



今井エリアのイベントとして、ミニライブやバルーンアート、今井町独自のアート展が開催されました。

今井で、お店とともに成長できるように。

本年9月7日、本町筋の今井まちや館前にてフランス料理店を始めました。

名前はTama(たま)です。開店前は、横文字の名前を考えていましたが、今井町という土地柄と、覚えていただきやすいということから「Tama」になりました。由来は漢字の「玉」からです。

私は奈良県三郷町の出身、夫は福井県大野市の出身です。お店の場所を探すにあたり、私の実家が奈良ということもあり、奈良で庭があり、年月が経つごとに、お店も自分たちも成長できるような物件を探していました。現在の物件に出会ったのは、NPOの今井町のまちあるきに参加したことがきっかけです。

最初、物件を拝見したときは、すごく素敵だけど、改装費用が高額だろうかと、半ばあきらめていました。しかし、その物件が頭からずっと離れず、再度訪れたときには、どうしたらここでお店ができるのかを考えていました。

NPO今井まちなみ再生ネットワークの上田様はじめ、多くの方々に助けていただき、改装も無事終え、9月にオープンすることができました。

当初、今井町という場所でフランス料理、しかもおまかせコース料理のみということで皆さんに来ていただけるのかなと不安でしたが、今井町の文化的な集まりに利用してくださったり、ご近所の方が家族でお食事をしていただいたりと、大変感謝しております。

今井町のみなさんは元気で明るい方たちが多く、私たちはいつも今井町の方々からパワーをいただいています。まだまだ未熟な二人ですが、少しずつお店も私たちが成長できるように努力していきますので、これからもよろしく願いいたします。

最後になりましたが、関係各位にあつく感謝を申し上げます。

南部礼一郎・純枝

Shop information

- レストランTama
- 橿原市今井町4丁目5-14
- 電話：0744-24-8868
- ご予約の受付時間：10:00～11:30 / 15:00～17:00
- 営業時間：12:00～15:00 (ラストオーダー 13:30)
18:00～22:00 (ラストオーダー 20:00)
- 定休日：月曜日
- 駐車場：市営駐車場(華薨の裏)をご利用ください。

Lunch : 昼のおまかせコース 2,800円(税込)

Dinner : 夜のおまかせコース 4,700円(税込)

年末年始
営業時間の
お知らせ

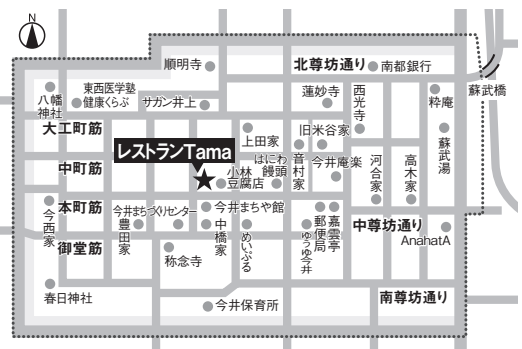
年末は、12月30日(～15:00)まで
年始は、1月7日から平常通りの営業です



Tama、たまさん、レストランTama…。一度聞いたら忘れられない名前です。料理には欠かせない「たまねぎ」、宝物という意味の「たま」。そして、純枝さんの旧姓が「こだまさん」。レストランTamaは、お二人の大切な思いが込められたお店です。



今井まちや館の前、小林豆腐店さんの一軒はさんと西隣りです。



編集後記

大きな事業を経験。私たちNPOの取り組みは、多くの方のご支援、ご協力があって実現するものであると痛感。それはまちのコンセンサスづくりにつながっています。(T)